

マウンテンマウスの紹介を少し

山口県周防大島出身の「マウンテンマウス」は、兄「中谷昌史」と妹「中谷愛美」の兄妹ユニットです。グループ名「マウンテンマウス」の由来は、マウンテンが山、マウスが口、つまり山口の直訳です。ここからも、ふるさとである山口県と周防大島を愛する気持ちがよく表れています。

2001年7月「DA DA DA」でCDデビュー、山口県・広島県・岩手県・宮城県を中心に精力的な音楽活動をしています。

嘉年では昨年も兄の昌史さんによるコンサートが行われました。



1月30日(水)、周防大島の兄妹デュオ「マウンテンマウス」を招いてコンサートが行われました。

マウンテンマウス

ふれあいコンサート



参加者全員で記念撮影です！



参加された皆さん、興奮は冷めて夜はゆっくり眠られましたでしょうか？

夜の7時半から、分館の大集会室では熱気ムンムン。嘉年小・情島小の子供たち、両校の関係者、保護者、地域住民、マウンテンマウスの協力者、舞踊家等々、100名余りの賑やかなひと時でした。マウンテンマウスの見物者を巻き込んだエネルギッシュな歌と振り付け、若い舞踊家の創作舞踊、参加者も手振り身振りでのその場の雰囲気引き込まれ、躍動感の溢れる時間でした。このシヨウは、嘉年小学校と情島小学校の交流会の一環でもあり、コンサートの後は、真っ暗なかかし広場で保護者達により市販花火の打ち上げも行われ、子供たちも約2時間の楽しいひと時となったようです。

身も心も引き締めて

「写経」に取り組みました。



今年の冬は積雪が少なく、景色の中に真っ白の雪があることを忘れてしまいましたが、その頃になると思い出したように少し白い世界を取り戻し、冬が忘れないでとあがいています。そんな中、2月7日(木)に嘉年地区の女性たち14人が極楽寺(芳元聡住職・堂免)で、恒例となりました年初めの写経に取り組みました。参加された皆さんも、日常生活から意識を切り替えた、心の落ち着きと集中力を養い、達成感も味わえる貴重な時間となっているようです。緊張感の中で何かに取り組むという事は、日常生活に芯を通す精神修養の一環として、現代の私たちに最も必要なものなのかもしれませんね。

「写経」とは？(日本国語大辞典) 仏語。経文を書き写すこと。また、書き写した経文。本来、経文を広く世に伝えるために行なわれたが、その功德が高く評価されたので、後には国家の安寧、祖先の冥福、自己の得脱など、種々の目的から行なわれるようになった。

嘉年地域おこし通信

協力隊として嘉年で活動するのめあと一カ月となりました。分館便りに文章を載せていただけでもこれが最後です。思えばあつという間の一年間でした。つらいことももちろんあったけれど、楽しいことばかりの一年間でした。それは嘉年のあたたかくて面白いみなさんのおかげです。本当にありがとうございます。

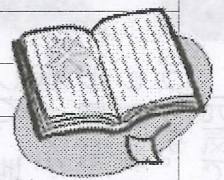
嘉年には美味しいお米や野菜があって、豊かな自然があつて素晴らしい伝統文化があつてと地域資源に溢れています。しかし、その地域資源を作り出している、「人」こそが一番の資源だと思います。生活が急激に変化した現代では、地域に残る風習や伝統を受け継いでいくことが難しい状態です。しかし、一度途絶えてしまえば再開することは容易ではありません。たとえ子供の世代が興味を持たなくても孫の世代が興味を持つかもしれません。私の地元でも、父の代で途切れてしまった古い風習があることが、祖父が亡くなった後に分かりました。それはとても素敵な風習で、しかし、今ではそれを知る人はほとんどいないというのです。話を聞いた時からずっと気になっていました。嘉年に来て、様々な伝統や風習を見て、ますます知りたと思うようになりました。完全に途絶える前にどうにか残すつもりです。長々書いてしまいました。要するに、せっかく素敵な風習や文化があるのだから次世代に伝えて欲しいということです。話は変わりますが、4月から阿東に残ります。長門峡の道で働く予定です。車なしの

「今年度最後の図書購入です。」

新着図書以外の蔵書の中にも、興味を引く図書も多々あるかと思っております。是非お出でいただき、本棚をご覧ください。

Table with 3 columns: Author, Title, Publisher. Includes books like 'こころ歳時記', '十二支の動物たちの生き方事典', 'なでし子物語', etc.

生活となるため、嘉年では暮らせそうにありませんが、同じ阿東内におります。今までありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願ひします。 谷治加奈子



イルミネーション お役目ご苦労さま！

地域の皆さんのご協力で、年末・年始の寒くてせわしい季節、嘉年集落センター前の国道沿いに、ささやかな暖かさを提供したイルミネーションでしたが、12月20日から1月15日まで、ささやかな明かりを灯し、暗くて寒い夜に、外出先から嘉年に帰り、清々しい光の点滅が目に入ると、なんとなく「ホッ」としたのは私だけでしょうか？



今回は、地域団体からのイルミネーションの寄贈もあり、鮮やかさも、より鮮明となった気がしました。今年末も、厳寒期のささやかな灯を地域の皆様方のご協力でご協力くださるよう、よろしくお願いいたします。 また、寄贈いただいた団体及び個人の方には、ありがとうございます。

阿東地域交流センター 嘉年分館長